



■古くからの歴史を感じさせる拝殿 2 拝殿の裏手に鎮座する男石 3 拝殿の入り口は手の込んだ造りで宮大工の高い技術が伺える

Oshu Heritage

奥州遺産

No. 21

ときを越え
受け継がれるもの

磐神社

衣川区石神

衣川区古戸の中心地から南西に向かう田園風景の中に、ひととき高く伸びる杉林が目飛び込む。そこにある大岩が磐神社の神体。胆沢七社の一つで明治4年に上衣川村の村社とされた。

日本武尊を祀り、奥州平泉文化より前の古代から崇拝されてきた。神社の南には安倍館跡があり、安倍氏も氏神として崇敬したと伝わる。元来、拝殿は設けられなかったが、明治中期に近郷氏子の寄付により、現在の拝殿が建立された。

拝殿の裏手には幅10・2メートル、高さ4・2メートルの男石大明神と呼ばれる巨石が鎮座。松山寺境内の女石神社と一対の神として崇められてきた。夫婦の健康と和合を守る神とされ、揃って参拝することで所願が成就するといわれる。安倍氏のころから、人々の信仰を集めてきた神は、自然豊かな山里を今も静かに見守っている。

広告